

家庭と学校を結ぶ、保護者向け進路便り

はじめに

71期生が3年生となり、いよいよ進路実現に向けて始動する時がやってきました。4月21日には、300名以上の保護者の方に出席いただいた「3年生保護者向け進学説明会」も無事終わり、保護者の皆様のほうが、子どもたちよりも一歩早く受験への心構えを持たれたことと思います。子どもたちは、最後の「学園祭」を終え、3年生は進路実現に向けての準備を始める時期となります。ご家庭でもどうか後押しをよろしくお願いいたします。

72期生は、部活動・生徒会活動・修学旅行・科目選択と、最も忙しい1年です。自分自身を見失わず、将来のことを考える時間もしっかりととって欲しいと思います。

73期生は、それぞれ高校生活に慣れてきた頃かと思います。いよいよ、高校生活初の定期考査がやってきます。十分な準備の下考査に臨めるよう、ご家庭でもご指導よろしくお願いいたします。

6月に入り、いよいよ梅雨の時期に突入します。今年は例年以上に雨の量が多いのではと予測されています。この時期、健康を損ないがちになりますので、保護者の皆様方、どうかご自愛ください。

『今年の入試はどうなるのか?!』 昨年の影響は…。

新テストに向けての情報が錯綜しています。特に、「Japan.e-portfolio」がどうなるのかは、新テスト1期生である73期生だけの問題ではないかもしれません。来校されるさまざまな大学の入試担当者に探りを入れていますが、なかなかはっきりとした返答は返ってきません。「7月にはなんらかの回答がです。」という言葉だけが多い印象です。新しい進展がありましたらお知らせしようと思います。

さて、昨年度の入試では、全体の合格者数は若干減少しましたが、個々にかんばった生徒、こだわった生徒が多かったように思います。10数年ぶりに東大に合格した生徒は、塾にも通わず、学校の勉強と自学自習で自らの道を切り開きました。阪大・神大・大阪市大などにも、例年以上の数の生徒が合格しています。また、近年は看護・医療系の大学への進学を希望する生徒が増加してきています。看護・医療の世界は茨の道ですが、その世界で社会に貢献しようとする彼らには、エールを送りたいと思います。さらに、こだわりを持って受験した生徒も少なくなく、このことは非常に良い傾向ではないかと考えます。

ところで、昨年の私大入試では、関・関・同・立に振り回された感があります。文科省の指導の下、厳密に合格者数を絞ったことが原因で、産・近・龍・佛あたりの大学がしわ寄せを受け、多くの大学の文型学部が定員に満たないという結果を引きおこしました。後期の国公立大学の合格者の事態により、関関同立の4大学が追加合格を出した影響で、その次の大学の定員に穴が開き、慌てて追加を出したが、既に3月の半ば以降であり、入学手続きをする受験生が不足したようです。今年度も、同様に合格者数には厳しい制限がつきそうですが、今年度定員に満たない大学は、若干文系の難易度を下げる傾向にあるようです。

進学希望の変化は…?

世の中の景気の伸び(?)を反映して、現状の進学希望は、「文高・理低」となっています。また、少子化の影響から、「教育系」の人気も下降気味です。一方、看護・医療、栄養系など、資格取得できる学部・学科は、志願者が増加しています。このさきどうなるのかは、なかなか読みにくいところですが、

「理系は就職がよくて、文系はダメ」といった考え方は、少し古くなってきているように思います。また、有名大学でなければ、良い企業(何をもちょう良い企業というのかはわかりませんが)に就職できないという神話も、崩壊しつつあります。現在でも一部、そういった風潮は残っているようですが、今、社会の最前線で活躍している企業の多くは、文系・理系であろうと、どの学部であろうとオープンに採用を行っています。では、何をみているのでしょうか？ それは、「人(個人)」です。その人がこれまでどのようなことを経験してきたか、どのような物に興味を持って活動してきたか、何をどのように勉強してきたか。社会に対してどのような形で貢献しようとしているのか、などなど。個人の能力を最優先に採用する企業が増えてきています。大学生の企業選択にも近年変化は生じています。京大の理系出身の学生が東大阪の町工場に就職しているそうです。大企業の歯車になるよりも、自分で社会に貢献できるロボットやロケット(人工衛星)を造りたい。そういう思いを持って社会に巣立つ学生が増えつつあるようです。ですから、保護者のみなさまも、「この職業につくためにはこの大学のこの学部！」といった決めつけはなさらない方が良いと思います。本当に本人がやってみたい方面に進ませるのが一番だと思います。そして、大きな心で背中を押して、支えてあげてくだされば、それで子どもさんは充分自分の将来についても考えると思います。社会の動向は、日々変化しますが、寝屋高卒業生にはぶれずに自分の思うことを精いっぱいできる人になってほしいと願っています。

うちの子は・・・

(「PTA 進路委員」をお願いしている保護者のみなさまに、自分のこどもさんについて語っていただいた文章です。ナマの声をお届けします。)

ついこの間入学したかと思えば、月日の経つのは早いもので、受験まで残すところ半年余りとなりました。

寝屋川高校に入学して、素晴らしい環境の下、良い先生方や友人に恵まれ、大変充実した学校生活を送らせて頂いております。

娘も4月末にクラブ活動を最後までやり切って引退しました。2年間は勉強そっちのけで、どっぷりとクラブ漬けの生活をしていましたので、引退後は受験モードに入るかな？ と淡い期待を抱きつつ様子を見ていますが、家では食べるか、寝るか、携帯に触るかの繰り返し……。で、全く焦る様子もなく、今現在に至っています。これまでも考査前に家で勉強している姿をほとんど目にしたことはありません。また、数学が大の苦手で、いつも「数学だけはほんまムリ～」と口癖のように言うだけあって、毎回とんでもない点数をとってきます。(笑)

そんな彼女なので、自分のやりたいことや、将来の夢がまだ見つからず、行きたい大学も正直決めかねているようです。

こちらから言いたいことは山ほどあるのですが、今は子どもを信じて見守りたいと思います。

そして、進みたい道が決まったときには、全力でサポートしていきたいと思っています。

(3年：Mさん)

おわりに

毎年この時期が最も希望に溢れる時期です。さまざまなことが新しくなり、新しいスタートとなります。どうか、どの子も上手にスタートを切り、それぞれの目標を叶えてくれるよう祈るばかりです。

なお、進路に関するご質問やご相談がありましたら、ご遠慮なくご連絡下さい。

TEL 072-821-0546

(事務室に電話がかかりますので、「研究開発室へ」とおっしゃってください。)

文責：神原 実 (研究開発室)